

青雲同窓会報

発行
 岩手県立花北青雲高等学校
 青雲同窓会
 〒028-3172
 岩手県花巻市石鳥谷町
 北寺林11地割1825番地1
 TEL 0198 (45) 3731
 FAX 0198 (45) 3746
 発行人
 会長 藤原康洋

一日も早い収束を



同窓会会長

藤原康洋

日頃より、同窓会活動に
 対しましてご支援、ご協力を
 賜り、心より感謝申し上げ
 げます。

今年は今和四年、寅年。
 令和も四年目に入りました
 が、新年号の祝賀ムードも
 そこそこに予想もしなかつ
 た新型コロナウイルスの出
 現により、ここ二年間は感
 染拡大とその予防対策に振
 り回される日々が続いてい
 ます。令和二年三月、突然
 の学校臨時休校措置に始ま
 り、マスクの配布や政府か

らの特別定額給付金、大都
 市圏などには緊急事態宣言
 等が発令されたほか、昨年
 からの段階的なワクチン接
 種など様々な対応・措置が
 とられてきました。ほかの
 都道府県では感染者が日増
 しに増加していく中で、岩
 手県内では令和二年七月末
 まで一人も感染者が出ない
 ということで注目された時
 期もありましたが、今回の
 驚異的な感染力を持った新
 型コロナウイルス感染者の増加は
 本県も全く油断できない状

況です。現在はこれだけ全
 国で感染が拡大し、誰が
 罹っても不思議ではないわ
 けですが、インフルエンザ
 と違ってコロナ感染という
 だけで特別な目で見られた
 りすることがいまだに常態
 化しています。また、コロ
 ナ感染に関係なく業績好調
 な企業がある一方で、長引
 く経済的な悪影響により倒
 産や従業員の人員整理を行
 う会社があるなど明暗が分
 かれています。身近なところ
 では、地区公民館も飲食
 の有無にかかわらず使用で
 きなくなっているほか、運
 動会など地域の親睦行事も
 軒並み中止を余儀なくさ
 れ、不必要な外出は控える
 など自粛生活は皮肉にも定
 着してきています。何にし

ても一日も早いコロナ禍の
 収束が待たれます。

学校生活では、令和二年
 度は行事やクラブ活動まで
 大きな制約を受け、東北・
 全国大会の中止により三年
 間の生徒の努力が報われな
 いなど非情とも思えること
 もありましたが、令和三年
 度になるとコロナ生活に慣
 れてきたのか、学校行事や
 クラブ等の全国・東北大会
 も感染拡大の波のはざままで
 あつたり、様々な感染予防
 対策が図られたことにより
 開催されるようになりまし
 た。ここ数年、野球などス
 ポーツで岩手県出身者の国
 内外での活躍ぶりが報道さ
 れていますが、どんな分野
 でもいいですので本校出身
 者が大きく飛躍、活躍する
 場面も見たいものです。コ
 ロナに屈せず、今後に期待
 です。

同窓会事業では、総会は
 令和二年度、三年度と二年
 続けて本部、東京支部とも
 開催を見送ったほか、事
 業では昨年に同窓会員を

講師として、生徒を対象と
 した青雲講演会を規模縮小
 して開催したくらいで、感
 染予防を最優先としまし
 た。

現在の同窓会は、令和三
 年度の卒業生百五十七名が
 入会し、現在の会員数は七
 千四百八十九名となってい
 ます。令和六年度には本校
 が創立五十周年を迎えま
 す。今後、実行委員会を立
 ち上げ、PTAや先生方と
 一緒になって各種記念事業
 を企画・実施していきま
 す。五十周年の節目にふさわ
 しい事業となるよう先例も
 参考にしながら内容を検討
 していくこととなります。
 今後とも同窓会員の皆さま
 には、会員間のネットワー
 クを強化・拡大していただ
 きながら、同窓会活動にご
 理解、ご支援くださいます
 ようお願い申し上げます。

いあいさつ



花北青雲高等学校

校長 太田 優子

青雲同窓会の皆様には、本校の教育活動にご理解とご協力を頂いておりますことに心より感謝申し上げます。

本校は今年度、創立四十七年目となり、平成十五年に総合的専門高校として再スタートしてから十九年目を迎えました。情報工学科、ビジネス情報科、総合生活科の専門的な学びに加え、総合的専門高校の特長である他学科の科目を学べる点を生かし、生徒たちは互いに刺激を受けながら専門性を高めています。

新型コロナウイルスの影響は今年度も続き、昨年ほどではないにせよ、行事や大会の変更や中止がありま

した。様々な制約により、以前のような活動ができないう状況は今後も続くことが予想されます。Withコロナの時代、生徒たちが安心して教育活動に取り組める日が一日も早く来ることを願っています。

このような中でも、生徒たちは、今できることに真剣に取り組み、活躍を見せてくれました。部活動や学科の活動では、夏の全国大会にバドミントン部、卓球部、O A部、珠算部、ビジネス情報科(情報処理)が出場。工学研究同好会のマイコンカーラリーは、一月の全国大会に出場予定でしたが、コロナ感染拡大により残念ながら大会が中止と

なりました。上位の大会に進むことが出来なくとも、いずれの部活動も、日々の練習に励み競技力や人間力、チーム力を向上させてきました。青雲生がもつ何事も全力で努力する姿勢は、先輩から後輩へと受け継がれています。

進路面では、オンラインによる試験も一部ありましたが、昨年度からのノウハウを引き継ぎ、生徒が進路実現に向け力を発揮できるよう指導に力を注ぎました。公務員は七名が内定、民間と合わせた就職内定率は一〇〇%となり、進学も国公立大学八名合格の他、将来の職業選択を見据え上級学校に進学する生徒が六割となりました。

さて、十一月の青雲講演会では、平成六年度卒業の佐藤雄三様から「命について考える」と題したご講演をいただきました。佐藤様は、花巻市消防本部に勤務され、東日本大震災時は救急救命士としても命を救う

現場に関わってこられました。三年生だけの聴講でしたが、生きることの意味、命の大切さについて、ご自身の経験から多くのことを後輩たちに教えていただきました。「限りある人生だからこそ、何気ない毎日を当たり前と思わず、一日一日に感謝し周りの人を大切に、自分らしく生きていきたい。」生徒の感想です。生きることの素晴らしさ、一人ひとりがもつ可能性を存分に伸ばすことなど、後輩たちに多くのエールをいただきました。

総会等が中止となり、同窓生の皆様にお目にかかることが出来ない状況が続いています。在校生へのご指導・応援等、多方面でご支援をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。コロナ禍で同窓生の皆様の中にも、大変なご苦労をされている方々がいらっしゃるのではないかと存じます。心よりお見舞い申し上げますとともに、一

日も早い収束を祈るばかりです。

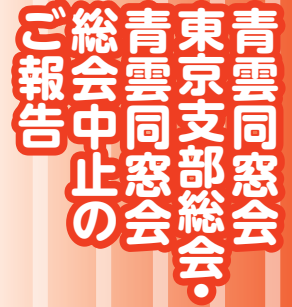
感染防止対策と教育内容の充実の両立を図り、今後も地域との絆を深め、生徒の力を伸ばす教育活動に邁進する所存ですので、同窓生の皆様の温かいご支援を引き続きどうぞよろしくお願いたします。



ロードレース大会



入学式応援活動



令和三年六月十九日(土)、青雲同窓会東京支部総会を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から東京支部長、同窓会役員で検討を重ねた結果、昨年度同様、今年度も中止となりました。東京支部会員には書面にて中止の旨をご報告させていただきます。

また、八月二十八日(土)に予定しておりました青雲同窓会総会も、同様の理由で中止と判断し、新聞広告等を利用し中止のご報告をさせていただきました。

来年度の開催に向けて役員、事務局ともに計画して参りますので今後ともよろしくお願ひします。

役員紹介

会長	藤原 康洋	(昭和55度卒)
副会長	佐々木 俊幸	(昭和49度卒)
副会長	中村 弘樹	(昭和60度卒)
理事	多田 義明	(昭和43度卒)
理事	千葉 俊明	(昭和54度卒)
理事	高橋 幸治	(昭和55度卒)
理事	藤井 仁	(昭和55度卒)
理事	岡田 知穂	(昭和57度卒)
理事	三宮 真利	(昭和57度卒)
理事	小野 英二	(昭和61度卒)
理事	佐藤 智栄	(平成4度卒)
理事	佐藤 雄三	(平成6度卒)

監事	伊藤 秀己	(昭和58度卒)
監事	菊池 司	(昭和60度卒)
監事	柴田 晃子	(平成3度卒)
顧問	阿部 正介	(昭和43度卒)
顧問	高橋 安之	(昭和46度卒)

東京支部

支部長	佐々木 則司	(昭和49度卒)
副支部長	赤坂 智仙	(昭和63度卒)
事務局	荒瀬 富姫子	(昭和47度卒)
事務局	中島 清郎	(昭和62度卒)
顧問	菅原 崇人	(昭和45度卒)

令和3年度 事業

〈令和3年〉

- 4月9日(金) 入学式 於 本校第一体育館
- 5月21日(金) 第1回同窓会理事会 於 本校小会議室
- 6月19日(土) 東京支部総会 感染拡大防止のため中止
- 7月28日(水) 第2回同窓会理事会 於 本校小会議室
- 8月28日(土) 定期総会 感染拡大防止のため中止
- 11月25日(木) 青雲講演会 於 本校多目的教室
講師 佐藤雄三氏 (本校平成6年度卒業生)

〈令和4年〉

- 2月中旬 第3回同窓会理事会
感染拡大防止のため書面にて決議
- 2月28日(月) 同窓会報第42号発行
- 同窓会入会式 於 本校第一体育館
- 3月1日(火) 卒業式

令和4年度 事業予定

〈令和4年〉

- 4月8日(金) 入学式 於 本校第一体育館
- 5月下旬 第1回理事会 於 本校小会議室
- 6月18日(土) 東京支部総会 於 東京都内
- 7月中旬 第2回理事会 於 本校小会議室
- 8月27日(土) 定期総会 於 花巻市石鳥谷町 新亀家
- 10月~11月 青雲講演会

〈令和5年〉

- 1月下旬 第2回理事会 於 本校小会議室
- 2月28日(火) 同窓会報第43号発行
- 同窓会入会式 於 本校第一体育館
- 3月1日(水) 卒業式 於 本校第一体育館

〈総会、東京支部総会について〉

新入会員の方も卒業して約半年、近況報告を兼ねてお誘い合わせのうえぜひご参加ください!

令和二年度青雲講演会

講師 平成六年度卒業生 佐藤雄三氏

本校の同窓生を講師としてお招きし、後輩たちへエールを送る内容で実施している青雲講演会。昨年度は新型コロナウイルスの影響で実施ができませんでした。

感染症拡大のリスクを最小限に抑えるため、今年度は三年生のみを対象としての開催となりました。

講師は、佐藤雄三さんです。佐藤さんは、本校平成六年度の卒業生であり、現在は「花巻市消防本部 花巻中央消防署 救急救助第一係長 消防司令補」として、花巻市民の安心・安全な生活を守るために勤務しております。学生時代の生活や、消防士として勤務しての「命の大切さ」など、佐藤さんの貴重な人生経験から後輩たちにエールを送ってくださいました。以下、佐藤さんの講演内容を抜粋してご紹介します。

「私は盛岡市で生まれ、少

年時代に花巻市に引っ越してきました。中学時代からバドミントンを始め、高校でも続けたいと思っていたところ、当時バドミントンの実業団チームで大活躍していた、渡邊清一先輩(現・花北青雲高校勤務)の母校というところで、憧れを抱き北商への進路を決めました。入学後は、部活動には一生懸命取り組み、インターハイ出場も決めていい思いをすることもありました。が、生活面では先生方や親に大変迷惑をかけました。そのため、三年生になっても進路を決定できず、先生方からも「自分で決めなさい」と見放された状態でした。そんな時、母親から「専門学校で一年間勉強してもよい」と応援されました。公務員専門学校に入学しました。将来の目標も定まらず、勉強に集中できない日々が続いていましたが、過去問を繰り返し解けば点



数が伸びる!という原理に気が付き、始めて勉強が楽しいと思えるようになってきました。目標を消防士の仕事に定め、専門学校の先生方には小学校レベルの問題から教えていただき、目標に向けて努力を重ねてきました。

縁があり、花巻市消防局に内定をいただき、今日まで消防士として働いております。入署後は更なるスキルアップのために救命救急士の資格を短期集中で取得しました。極限まで追い込み勉強すると、ものすごくお腹が空きますよ(笑)

東日本大震災の際は応援として沿岸部へ駆けつけ、住民の方の体調の管理や安全に生活できるよう、できる限りのことをしました。津波で町が流され、瓦礫が残りご遺体も回収されていない中、住民の方が黙々と道を歩いていたので今でも鮮明に覚えています。

今回のテーマとして「生きる」を掲げてみました。生きるとは何か、皆さんよく考えてください。正解はないと思いますが、「死」を自分のものとしてとらえた時、人は初めて「どう生きるか」という問いに向き合うのではないのでしょうか? 私の友人が体調を崩し、がんと宣告されたとき、「今までなんとなく生きてきたけれど、死と向き合うことでは一杯生きるようになってきた。生きていくということがいかに幸せか分かった」と話していました。私自身はまだ経験はないですが、命と向き合う現場で勤めていると、そのような状況の方がたくさんいます。その人たちは、最後まで精一杯

生きようとしています。

最後に、このような人間になってほしいと、三つのことをお話しします。

- ・自分中心ではなく、他を尊重し共有できる優しい人間
- ・些細なことにも感謝できる人間
- ・人生の可能性は無限大。生きていれば必ず楽しいことが待っている!

三年生の皆さん、自分の命を大切に、今この瞬間のすべての事柄に感謝の気持ちを持ち、一生懸命生きてください。卒業生として、皆さんの今後のご活躍を期待しております」



同窓会員から

平成三十年卒業生

中島 陽菜



私が高校を卒業してからまもなく

四年が経ちます。高校生活三年間は本当にあつという間だったなと思返しています。

私が花北青雲高校に入学した理由は、小学校から続けているバドミントンを花北青雲高校で続けたいと思ったからです。入学当初は進路について深く考えることなく、バドミントンに没頭した生活を送っていました。部活動は楽しいことも辛いこともたくさんありましたが、周りの方々や環境に恵まれ、三年間インターハイに出場することが

できました。何よりも一生懸命になって指導してくださった顧問、コーチ、一緒に切磋琢磨できる同級生の存在が大きかったです。大好きなバドミントンを思う存分にでき、充実した部活動でした。

進路について真剣に考え始めたのは三年生の七月でした。一年生から公務員コースに入っていた私は、消防士・警察官のどちらかになりたいと思っていました。正直なところ、申し込みのぎりぎりまで悩んでいました。そんな時、駅で見かけた救急隊の中に女性消防士がいて、その姿に惹かれたことがきっかけとなり、消防士になろうと決意しました。

部活動の引退が八月下旬だったため、両立しながらの学習は不安でしかありません

せんでしたが、『夢を毎日思うことで、人は夢に向かって一日一つでも何かをするようになる。』と担任の先生から言われた言葉を思い出し、強い思いをもって学習に励みました。そして、花巻市消防本部に就職することができました。

そんな私は現在二十一歳、社会人三年目が終わろうとしています。初めてのことに挫折することも多くありますが、市民の皆様を守る、やりがいと責任のある仕事ができていることに日々感謝しています。また、休みの日にはバドミントンやスノーボードなど、自分の好きなことをしてリフレッシュしながら仕事に励んでいるところです。

思い出や近況を語らせて頂きましたが、高校生活三年間で培ったものは人生の糧になると思っています。在校生の皆さんに伝えたいことは、きっかけはなんでも良いこと、周りの人を大事にして思い切つて楽しく

過ごしてほしいということ
です。

この先たくさん
の困難が待ち受けている
かもしれませんが、それ以上に楽しい
ことがあると思います。何事にも
挑戦心を忘れること

なく、楽しく過ごしてい
きたいと思えます。そして、
家族と仲間に支えられて今
の自分があることに感謝
し、自分自身も周りの人の
支えになれるよう日々成長
していきます。



バドミントンインターハイ



吹奏楽部定期演奏会



青雲どら焼き校内販売



当時の青柳監督

・四十年近くも、高校野球の指導を続けさせてくれた家族に最大の感謝の気持ちを贈ります。ろくに家族旅行も出来ず、高校野球に明け暮れました。夏の県大会を勝ち進み、甲子園大会に出場、銀屋根（甲子園球場）の下で我がチームの応援をしてもらおうと努力しました

①指導者特別賞を受賞されて、現在どのようなお気持ちですか。

●北商野球部大活躍！（平成元年～平成八年）学校の過去を振り返る企画第三弾。花北商業野球部が岩手県大会の中心となって活躍した平成元年～平成八年。本校で野球部の指揮を執っていた監督・青柳伸二先生（現・大東高校勤務）が令和三年に岩手県高野連指導者特別賞を受賞しました。そこで、青柳監督に当時の野球部の様子を振り返っていただきました。

あの日あの時

が、かなわなかった。この事が一番の心残りです。甲子園出場を感謝の形として、家族に贈りたかった。三十六年の監督生活を私のがままを受け入れてくれた十六人の部長先生。本当にありがとうございました。また、支援をいただいた岩泉、大野、花北商業、大東、盛岡第四、水沢各高校のOB方々。そして、各高校の父母会の暖かい応援がなければ、続けることは出来ませんでした。三十六年の監督生活と一緒にグラウンドで甲子園を目指した数多くの教え子たち、

君達がいたから私は高校野球の指導が続ける事が出来た、本当にありがとう。私にもう少し指導力があれば、数ランク上の成績を残せたはずですが、御免なさい。最後に、高校野球が出来る平和な日本であることに感謝し、これからもそうあり続けることを祈ります。

②当時の花北商業野球部の主な戦績を教えてください。

- ・夏の大会
 - 準優勝 二回（平成二年、平成八年）
 - ベスト四 一回（平成五年）
 - ベスト八 二回（平成四年、平成七年）
 - 二十七勝
 - ・春、秋
 - ベスト四 各一回
 - ベスト八 一回
- 当時の春・秋は県大会出場枠が二。敗者復活もななくいつも地区予選で負けていました。当時の結果



92年岩手県大会準優勝

③印象に残っている試合を教えてください。

・平成元年六月の帝京高校と県の招待試合で対戦。この夏、帝京高校は全国制覇。結果は一八対〇。北商はスリーベース一本だけでした。
・平成二年夏の大会。一、二回戦逆転サヨナラ勝ち

を見ても、花巻東、花巻北、遠野、遠野情報、花巻南、花北商の六校で争い、県大会出場の連続はあまりない時代でした。



④印象に残っているエピソードはありますか。

・バカヤロー事件。練習中にも無駄なプレーにマイクで「バカヤロー」と一喝、その声は

（二関一・高田）。決勝は花巻東。この時は決勝で勝つことがゴールと思っていました。

・平成八年の決勝。甲子園出場確実のゲームでサヨナラ負け（盛岡大附戦）この時、決勝戦は通過点であり、甲子園で勝つことがゴールと決めています。

風に乗って、石鳥谷町内へ。

- ・合宿中の寝坊事件。怪我をしている一年生生徒は、合宿中は洗濯当番(二人から三人)寝ずに乾燥機を稼働してしました。洗濯当番が寝てしまし、部員を起こさず、グラウンドに遅れてきました。毎年一回ぐらいありました。私はグラウンドで待っていて、約二時間の集団走。

- ・平成五年の夏の準決勝前日、キャプテンが見ず知らずの男による暴行事件。主将がゲームに出られず敗退、キャプテンの存在が大きいことに気づく。

⑤青柳監督はどのような野球を目指していましたか?

- ・守備が安定していたので一点を取りに行く野球でした。
- ・多分ですが、セーフティスクイズを県内で流行らせたと思います。多数使

用し、毎年のように工夫を重ねました。

- ・盛岡第四の時はビックイニング狙いで、〇死二塁は打つことに徹しました。

⑥花北商野球部の強みはどのようなところですか。

- ・春の遠征の常宿「民宿小松」で鍛え上げた一日七・五合の食事。食事と筋トレで体力の向上。
- ・冬季の毎週土曜日のメニュー、五キロランニングで近くの温泉プールへ一時間の水泳(一キロ)。五キロのランニングで学校へ、最後に筋トレ。これをほぼ毎週。



97年岩手県大会準優勝

- ・週一のスケートトレ。
- ・七泊八日の夏前合宿後の満足度の高さ。「一日七時間の練習と一日七・五合の食事をクリアすれば結果はついてくる」と生徒が言っているのを聞いたことがあります。
- ・当時私はフルマラソンを完走していました。(三時間六分)何かあつたら「俺に勝つてから言え」でしたので負けるわけがなく、スパルタ練習に徹底できたのです。
- ・三十歳から三十八歳若き良き時代、グラウンドに八年もいるキャプテン。
- ・春と秋は、まだ成長過程と思っていたので、褒めることはあまりありません。

んでした。しかし、夏の大会だけは「勝てば一〇〇点負ければ〇点」「ここまで頑張ってきたのだから、あとはみんなが好きなようにしなさい。」決して怒ることなく、反省点は上げたけど、怒ることは決してなかった。

⑦今後の岩手県の高校野球に期待することは何ですか。

- ・私が目指した日本一になつてもらいたいのが一番。
- ・私が監督をした頃は、チーム数一〇〇に近い数だった。高校球児を徐々に増やしてほしい。

⑧最後に何かありましたら、ご自由にお願ひします。

- ・私が若いころ(大野高校時代)目時部長先生に聞いた話。「育成功労賞」ほどのような人がもらえる賞ですか? 「あれか、一生懸命頑張っ

ただ、甲子園に行けなかったでしょうだよ。」それ以来、その賞は、絶対いらぬ、絶対甲子園に行つてやると思いついていました。これは最近までマジで思っていました。

北商野球部の当時の強さの秘密を知ることができるとともに、高校野球への愛情がひしひしと伝わる熱い内容でした。青柳先生にはお忙しい中、インタビューに答えていただきありがとうございました。そして、岩手県高野連指導者特別賞の受賞、改めておめでとうございます。



新聞記事より

地元の味 満載ケーキ

花巻・花北青雲高(大田優子校長、生徒343人)は、総合生活科の2年18人は、同市の白石食品工業(白石一社長)と共同で焼き菓子づくりに取り組む活動を始めた。1日から期間限定で販売。地元産小麦を人々に使用して、生徒たちは「地産地消の地味活産化につなげてほしい」と願っている。

花北青雲高と白石食品工業

花巻産のトムキやふるを、国産リンゴのソフト質を「トムキ」の風味を再現し、ほろよい豆や生地に「ふる」しっとりとした食感を再現しながら、ふちふちした食感を再現し、トッピングは特製焼き、同校のキャラクター



「ざっくりりんごケーキ」をPRする木村友貴さん(左)と宮沢佑真さん

雑穀、リンゴ使い開発 限定販売 若者向け

ター「ふるもま」がリンゴと雑穀を混ぜるイラストをみらい、かわいらしさを意識して「ざっくりりんごケーキ」と名づけた。リンゴと雑穀の風味を再現し、ほろよい豆や生地に「ふる」しっとりとした食感を再現しながら、ふちふちした食感を再現し、トッピングは特製焼き、同校のキャラクター

(大友愛)

岩手日報 令和3年12月2日

高校生 いきいき接客 オリジナル商品販売

県内の高校生が開発したオリジナル商品などの販売会は24日、花巻市石鳥谷町好地の小さな百貨店ふらっとで開催され、生徒と買い物客の笑顔があふれた。同町の石鳥谷中央通り商店街振興会(岡裕一会長)主催。花北青雲高の生徒6人が店頭で接客した。販売品は、商品説明をしながら接客を体験した。

紫波総合高の生徒が開発したシクラメンや、花巻農高が生産したジャムなども並び、買い物客でにぎわった。花北青雲高1年の山本隼人さんは「商品の魅力を伝えながら接客ができた。自分たちが手掛けたものを喜んで買ってもらえてうれしい」と目を細めた。紫波町平沢の公務員高橋政喜さん(49)は「高校生と地域が連携し、にぎわいを創出する素晴らしい取り組みだと思う」とうなずいた。



店頭で接客する花北青雲高の生徒

岩手日報 令和3年10月26日

花巻活性化へ魅力発信

青年会議所 高校生とイベント

花巻青年会議所(松田治 会長)を主催した、地域の魅力を発信するイベント「花巻市 力を活用したまちづくり」を主催する青年会議所と連携し、市内の高校生が、お披露目した。イベントは、お披露目した。

を通じて自ら考え行動し、まちづくりを主体的に担うことや、地域の活性化を考えた企画、花北青雲高、花巻北、花巻南の3高校の生徒と青年会議所の会員などが参加した。このうち花北青雲高の生徒3名の4人は、同市東和町の障害者就労支援施設「マルまほほ」製造の豆乳を材料に、同市大連りのカフェ「リットワーク」の「ソイカレ」を開発。中でも材料にこだわり、おいしいだけでなく日本人に不足しがちな栄養素を摂取できるよう砂糖をまひ砂糖に、バターを菜油に変更したり、地産産材を厳選したりした。



ソイカレの開発を披露した花北青雲高の生徒たち

生徒がまとめた動画はマルカウ大食堂の10階ソフトライムや宮沢製菓が受託した「ソイカレ」の試食、高橋政喜の講話、カフェやソイカレ料理店などを岩手をめぐり東北の若者向けに紹介し、「楽しかった。行ってみたい」と思ってもらえたらうれしい」と話した。このほか会場にはお菓子の販売体験コーナーが設けられた。また、同市を拠点に活動するヒップホップグループ「ZOO-REEM」のライブ、参加した高校生と青年会議所の会員との交流、同校の生徒が地元北の若者向けに紹介し、「楽しかった。行ってみたい」と思ってもらえたらうれしい」と話した。このほか会場にはお菓子の販売体験コーナーが設けられた。

岩手日報 令和3年10月18日

令和3年度民間就職・公務員・進学内定状況(令和4年2月9日現在)

Table with columns for '区分' (Division), '職種' (Job Type), '情報工学科' (Information Engineering), 'ビジネス情報科' (Business Information), '総合生活科' (General Life), and '進路決定者数' (Number of Career Decision Makers). It details job offers for various sectors like Finance, Retail, Manufacturing, and Education.

